

第20章 浄禅寺跡遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

浄禅寺跡遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約600m、浄禅寺川の湧水地南側から右岸の台地上に位置する。標高12～14mで現谷底との比高差は2mを測る。浄禅寺川はさかい川と砂川堀の間を東流し、さかい川に合流する。さかい川はやがて砂川堀に合流して新河岸川へと注ぐ。

周辺の遺跡は北西に神明後遺跡、北側に苗間東久保遺跡が隣接する。本遺跡は1989年に苗間東久保遺跡の一部を、浄禅寺川を境に分割して登録した。

遺跡周辺は市街化が進み、残された畑地も周辺の区画整理の影響で開発が増加している。

2014年12月現在39地点で試掘調査及び発掘調査を行い、縄文時代早期の炉穴多数、前期住居跡1軒、中期住居跡1軒、中・近世の薬研状の堀や、遺跡名の由来である浄禅寺墓域から土壙墓157基、一字一石経約76,000点が出土している。浄禅寺は江戸時代に建立されたが、幕末に焼失して以来再建されていない。

II 浄禅寺遺跡第25地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財発掘の届出」が2011年6月27日付で、ふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の範囲内に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は6月27日に、幅約1.5mのトレンチを1本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。昭和40年代に盛土がされ、地山黒色土までの深さは約2mである。また、大正年間に施設されたコンクリートの土間が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

写真撮影・全測図作成など記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。



第80図 浄禅寺跡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

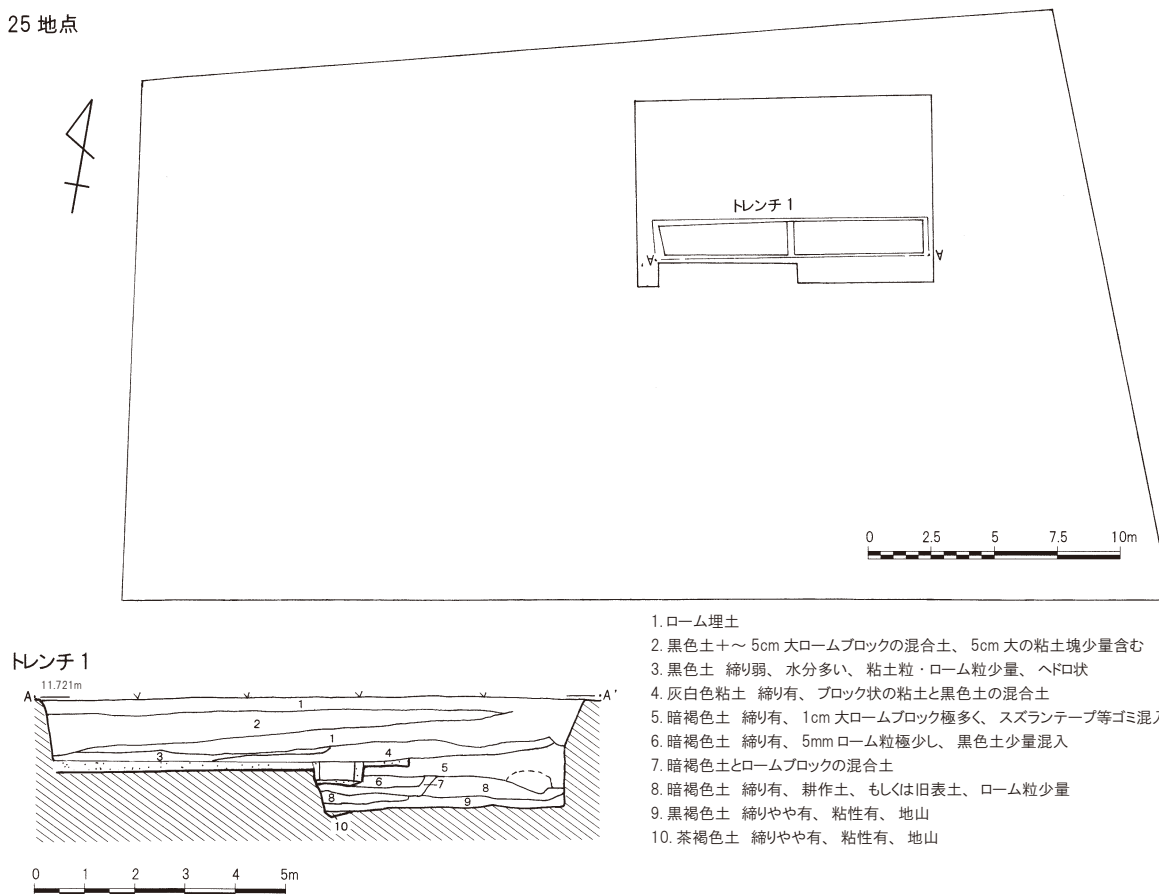
Ⅲ 浄禅寺跡遺跡第34地点

(1) 調査の概要

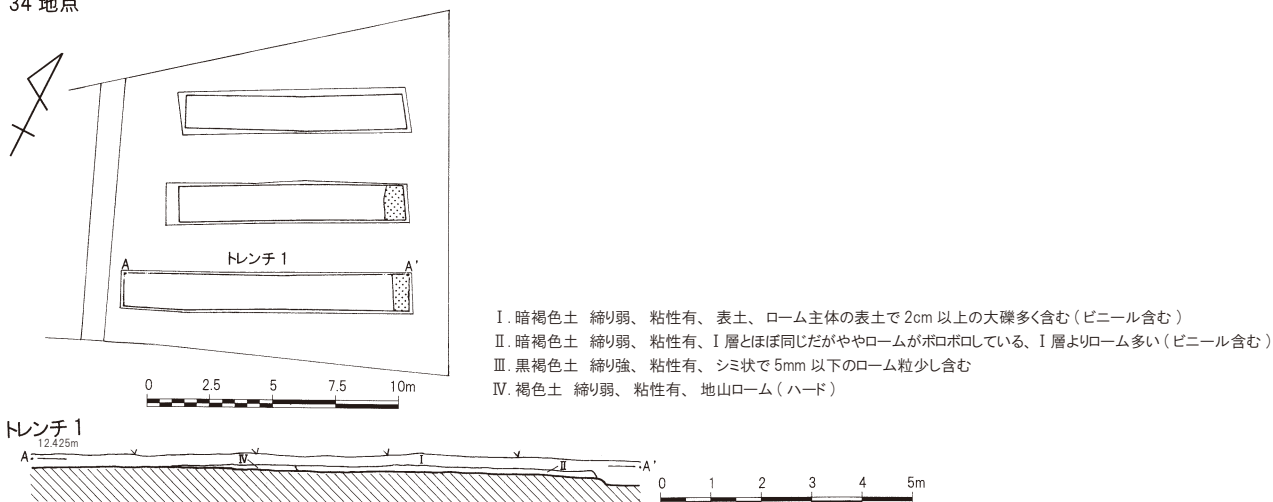
調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2011年8月4日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内に位置するため、試掘調査を実施した。

試掘調査は2011年8月24日に、幅約1.5mと2mのトレンチ3本を設定。重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。地表面から地山ローム層まで

での深さは約30cmである。遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。



34 地点

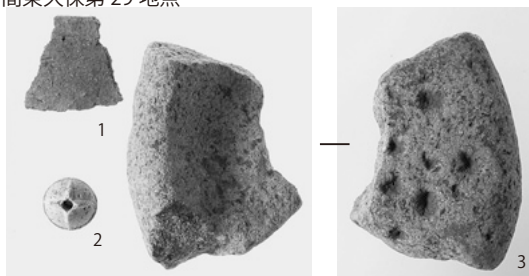


第81図 浄禅寺跡遺跡第25・34地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)



苗間東久保遺跡第 30 地点トレンチ 6

苗間東久保第 29 地点



苗間東久保第 30 地点



苗間東久保遺跡第 29・30 地点遺構外出土遺物



浄禅寺跡遺跡第 25 地点調査風景



浄禅寺跡遺跡第 25 地点調査風景



浄禅寺跡遺跡第 34 地点調査風景



浄禅寺跡遺跡第 34 地点トレンチ 2



西台遺跡第 8 地点調査風景



西台遺跡第 8 地点調査風景